

# ≡二展示 史跡真壁城跡令和5年度出土品展



## 出典

「図解・日本の中世遺跡」小野正敏 東京大学出版会 2001

「日本出土の中国陶磁」長谷部楽爾・今井敦 平凡社 1995

「焼き物にみる中世の世界 一県内出土の土器・陶磁器を中心にして」

上高津貝塚ふるさと歴史の広場 1999

平成6年（1994）に国史跡に指定され、遺構の保護や史跡整備のために発掘調査をしています。現在は中城庭園の全体像の解明を目指して、今年度は遺構の変遷を明らかにするための補足調査を行いました。17代久幹が庭園の基礎を造り上げ、18代氏幹がそれを基盤として当時の流行も取り入れながら庭園の大改造を行ったことが分かってきました。

当時の日用品や茶の湯を楽しむ嗜好品、武具などが出土しました。これらから、真壁氏の権力や財力などが見えてきます。ここでは、その一部をご紹介します。

## かわらけ

素焼きの土器で酒宴や儀式、照明器具（灯明皿）として使用後は廃棄されました。

	<p>V-1期 (久幹前期)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同心円状</li> <li>・内面下部膨らむ</li> <li>・内面中央部突出</li> <li>・内面ナデ、指頭痕</li> </ul>		<p>VI-1期 (氏幹前期)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同心円が崩れ出す</li> <li>・内面中央部が狭い</li> <li>・内面底部にボタン状の粘土貼り付け</li> <li>・口径が小さくなる</li> </ul>
--	---	--	--

## かわらけから分かること

真壁城跡から出土するかわらけは右図のように時期により特徴が異なります。

これを見極めることで遺構の年代がわかります。

遺構の土の中から出土した位置や高さを記録し、分析することで遺構の造られた時期や埋め立てられた時期を明らかにできます。

これらを総合的に判断し庭園の変遷を明らかにしていきます。

たけもと	とももと	ときもと	ひでもと	とももと	ひさもと	うじもと				
初代長幹	2代友幹	3代時幹	11代秀幹	13代朝幹	久幹前期	17代久幹後期	18代氏幹前期	氏幹後期		
1180頃	御家人に	1422	真壁氏没落	享徳の乱	1550頃	1561	1569	1573	1590	1602
真壁氏登場	なる	御家人に	真壁氏没落	享徳の乱	真壁城拡張	手這坂合戦	手這坂合戦	手這坂合戦	手這坂合戦	真壁氏没落

	<p>V-2期 (久幹後期)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やや同心円状</li> <li>・口径が大きくなる</li> <li>・内面底部が平らに</li> <li>・内面ナデ、指頭痕</li> </ul>		<p>VI-2期 (氏幹後期)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同心円が崩れる</li> <li>・縁が厚くなる</li> <li>・内面調整も雑</li> <li>・バラエティ豊か</li> </ul>
--	---	--	--

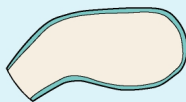
## 出土品のふるさと

桜川市周辺で作られたものだけでなく、全国・海外からの輸入品も出土します。出土品ごとにご紹介していきます。

### けいとくちん 景德鎮窯青磁香炉 (中国・江西省)

9～10世紀から始まり、その当時は昌南鎮と呼ばれていました。景德年間(1004～1007)に景德鎮へ改称しました。

- ・青磁香炉口縁部片
  - ・薄い釉薬
  - ・透き通る水色の釉薬
- 14世紀頃の生産



### 白磁皿 (中国・福建省)

白磁皿の底部にある角福文から産地、生産窯が分かるが、残りが悪く詳細は不明です。器形などから16世紀中頃の中国福建省のものと分かりました。

- ・胎土に不純物が混ざる
  - ・内面底部のツブツブ
- 焼成時に皿が付かないように砂を敷いたため



### あまおい 雨覆 (滋賀県長浜市)

火縄銃の部品で、火皿に雨水が侵入するのを防ぐために付けられた部品です。出土層位から江戸時代初期の寛文年間(1661～1673)とみられます。

この頃になると雨覆が着脱可能になります。



- ・長さ 7.9cm、幅 1.9cm
- ・重さ 14g の真鍮製
- ・内側に「國友」の銘

### めのう 瑪瑙 (茨城県?)

石英が縞目状に固まり透明度のあるものを瑪瑙といます。火打石として使用され、火打金と一緒に使用されました。県内の瑪瑙の産地は常陸大宮市周辺が有名で、この遺物も同地のものと考えられます。

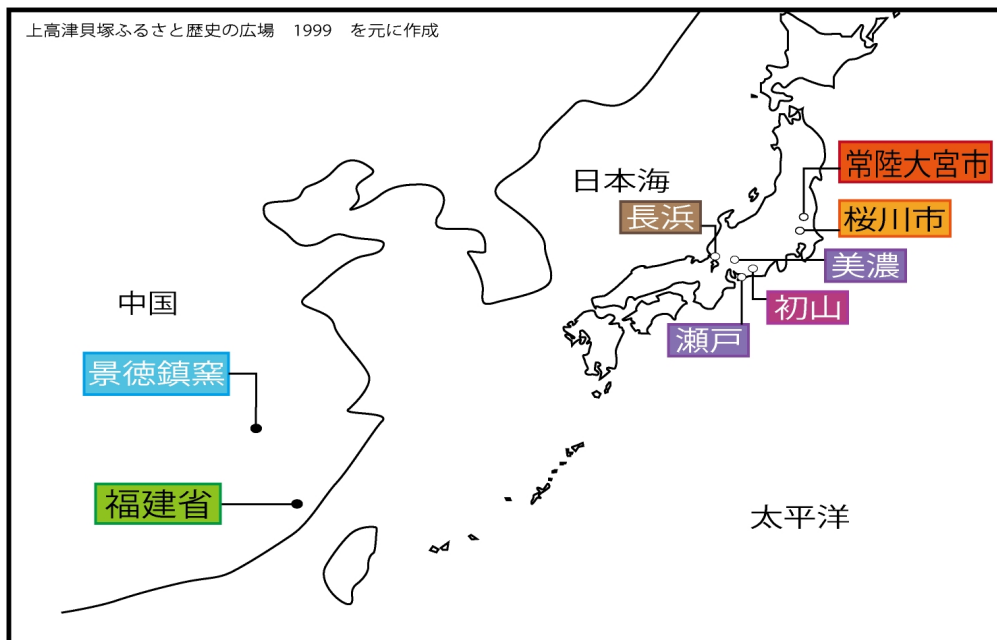
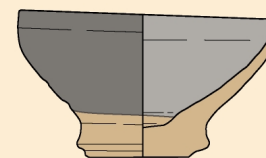
### すりばち 土器擂鉢 (桜川市周辺)

胎土に金雲母が入っているのが特徴で桜川流域の土に含まれるものです。

かわらけより大型のため、胎土に小石などの混和材を混ぜ、焼成時のひび割れを防止しています。

### 台付かわらけ (桜川市周辺)

- ・内外面ススで黒くなっている
  - ・台の部分がそろばん玉状
- IV期(久幹以前)



### すりばち 陶器擂鉢 (瀬戸美濃産)

緻密な粘土で作られた陶器です。この地域では陶器が盛んに生産され、日本全国で使われました。



- ・内外面に薄い鉄釉
- ・口縁部が出っ張る

### しょざん 初山産鉄釉皿 (静岡県浜松市)

1580～1590年代に生産された陶器です。当時の北条氏の勢力が及んでいた範囲の城跡のみで出土しています。また器形が美濃産の陶器と似ていることから、その工人が移住して生産を行っていたとみられます。

- ・灰色の胎土

